

平成26年度 教科に関する研究
研究主題「思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価」

社会・地理歴史・公民

社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会・地理歴史・公民
科学習指導と評価

—目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して—



目 次

I	主題について	1
II	授業研究	
	【授業研究 1】	
	社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会科学習指導と評価 —小学校第5学年「米づくりのさかんな庄内平野」における目指す児童の姿を 明確にした授業づくりを通して—	6
	【授業研究 2】	
	社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会科学習指導と評価 —中学校第1学年地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」における目指す 生徒の姿を明確にした授業づくりを通して—	12
	【授業研究 3】	
	社会的な思考力・判断力・表現力を育む地理歴史・公民科学習指導と評価 —高等学校第1学年公民科現代社会「現代社会と人間の在り方生き方」におけ る目指す生徒の姿を明確にした授業づくりを通して—	18
III	研究のまとめ	24

社会・地理歴史・公民科研究主題

社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会・地理歴史・公民 科学習指導と評価

— 目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して —

I 主題について

1 社会的な思考力・判断力・表現力について

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」では，社会科等の特性に応じた評価の観点「思考・判断・表現」の趣旨が，次のように示されている。

「小学校 社会」 平成23年11月

社会的な事象から学習問題を見いだして追究し，社会的な事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。

「中学校 社会」 平成23年11月

社会的な事象から課題を見いだし，社会的な事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。

「高等学校 地理歴史」 平成24年7月

歴史的・地理的事象から課題を見いだし，我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し，国際社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。

「高等学校 公民」 平成24年7月

現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし，社会的な事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し，社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。

(下線は本資料作成者による。)

また、「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」では，評価方法の工夫改善について，次のように示されている。

「小学校 社会」 平成23年11月

評価を適切に行うという点のみでいえば，できるだけ多様な評価を行い，多くの情報を得ることが重要であるが，他方，このことにより評価に追われてしまえば，十分に指導ができなくなるおそれがある。児童の学習状況を適切に評価し，その評価を指導に生かす点に留意する必要がある。

「中学校 社会」 平成23年11月

評価を適切に行うという点のみでいえば，できるだけ多様な評価を行い，多くの情報を得ることが重要であるが，他方，このことにより評価に追われてしまえば，十分に指導ができなくなるおそれがある。生徒の学習状況を適切に評価し，その評価を指導に生かす点に留意する必要がある。

「高等学校 公民」，「高等学校 地理歴史」平成24年7月

学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが重要である。

(下線は本資料作成者による。)

下線のことから、多面的・多角的に考察し、公正に判断したことを適切に表現する学習活動を通して、社会的な思考力・判断力・表現力を育むことができると考える。さらに、その際には、評価の観点の趣旨に示された児童生徒の姿を適切に見取り、指導に生かさなければならぬ。そこで、研究主題「社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会・地理歴史・公民科学習指導と評価」を設定し、研究副主題を「目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して」とした。

2 研究の基本方針

平成22年度の研究では、社会的事象の特色や事象間の関連を説明する言語活動を中心とする授業研究を行った。その結果、単元の目標及び学習内容を踏まえた事象の特色や事象間の関連を説明したり、論述したりすることができるようになった。また、平成24年度の研究では、言語活動を意図的に位置付けた指導計画を作成し、調べた事実に基づいて、互いに考察したことを説明し合う言語活動を中心とする授業研究を行った。その結果、互いの考察を説明し合い、自分の考えを明確にすることができるようになった。しかし、個々の学びにおいて、資料を基に読み取った社会的事象について、公正に判断し、適切に表現するまでには至らなかった。さらに、「思考力・判断力・表現力」が育まれた姿を適切に見取るための具体的な評価方法や、評価を指導に生かす手立てについての課題も残った。

今回の研究を進めるに当たって、社会・地理歴史・公民科における学習指導と評価についての実態調査を実施した。「『思考力・判断力・表現力』を育むための学習指導が適切に行われていますか」の回答結果から、各校種ともおおむね「そう思う・まあそう思う」と捉えていることが分かった。また、評価を適切に行うために取り組んでいることとして、「単元の評価規準の設定」や「ノートやワークシート等の記述の分析」が挙げられた。しかし、「評価計画の作成」、「評価時期の設定」、「『おおむね満足できる』状況や『十分満足できる』状況と判断される具体的な例などを想定した評価の実施」については、各校種ともに取組の回答が少ない状況である。このことから、児童生徒の学習過程における意図的・計画的な評価の充実が課題であることが分かった。

そこで、本研究では、これまでの研究の経過、実態調査の結果及び社会科等の学習で育むことが求められている児童生徒の力を踏まえ、目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して、社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会・地理歴史・公民科学習指導と評価の在り方について実践的研究を行う。

具体的には、課題解決型の学習を行うために、児童生徒が課題意識をもてる学習課題を設定する。そして、資料を基に社会的事象を読み取り、多面的・多角的に思考し、公正に判断した結果を説明・論述などで表現する学習活動を行う。評価においては、

評価を意識した単元計画を作成し、評価の判断の基準、評価方法及び評価の時期を明らかにして、児童生徒の思考力・判断力・表現力を的確に把握する。さらに、評価を基にして、学習指導の改善に生かしていく。このように、思考し、判断し、表現する児童生徒の姿を明確にした授業づくりを行い、判断の基準に照らし合わせて評価し、指導に生かすことが、児童生徒の社会的な思考力・判断力・表現力を育むことにつながると思う。

3 主題に迫るために

次に示すア、イの2点を踏まえ、具体的な手立てを講じた授業研究を行う。

- ア 児童生徒が課題意識をもてる学習課題の工夫
- イ 評価を意識した単元計画の作成

II 授業研究について

授業研究は、小学校1校、中学校1校、高等学校1校で実践し、授業研究ごとに分析・考察する。

なお、授業研究1から3における観点別学習状況の評価については、「『十分満足できる』状況と判断されるもの」をA（以下、「A」という）、「『おおむね満足できる』状況と判断されるもの」をB（以下、「B」という）、「『努力を要する』状況と判断されるもの」をC（以下、「C」という）として表記してある。

資料 社会・地理歴史・公民科における思考力・判断力・表現力を育むための学習指導と評価についての実態調査（数値は％）

- (1) 調査期間 平成25年12月20日から平成26年1月17日
- (2) 調査対象 県内公立小学校542校，公立及び県立中学校229校，県立高等学校96校1分校，県立中等教育学校2校
- (3) 回答総数 717件（小学校430件，中学校188件，高等学校（中等教育学校含む）99件）
- (4) 回収率 82.4％

設問1 社会・地理歴史・公民科における「思考力・判断力・表現力」を育むための学習指導が適切に行われていますか。当てはまるものを次の中から一つ選び、回答してください。（％）

	小学校	中学校	高等学校	総数
そう思う	22.3	28.2	15.2	22.9
まあそう思う	75.8	66.5	72.7	72.9
あまりそう思わない	1.9	5.3	12.1	4.2
思わない	0.0	0.0	0.0	0.0

学校総数で9割を超える学校が、「思考力・判断力・表現力」を育むための学習指導が適切に行われていると捉えている。ただし、高等学校では約1割が「あまりそう思わない」と捉えている。

設問2 社会・地理歴史・公民科における「思考・判断・表現」に係る観点別学習状況の評価の観点である「社会的な思考・判断・表現」（社会科）、「思考・判断・表現」（地理歴史・公民科）について、評価を適切に行うために取り組んでいることを次の中から選び、回答してください。（複数回答可）（％）

	小学校	中学校	高等学校	総数
単元の評価規準の設定	73.5	88.3	83.8	78.8
学習活動における評価規準の設定	43.5	40.4	50.5	43.7
評価規準を踏まえた学習課題の設定	45.1	51.6	25.3	44.1
評価計画の作成	24.4	23.9	22.2	24.0
評価時期の設定	13.7	12.8	18.2	14.1
学習カードやワークシートの工夫	75.3	88.3	36.4	73.4
学習活動の観察	66.3	59.6	59.6	63.6
ノートやワークシート等の記述の分析	71.2	80.3	53.5	71.1
評価に係る教師間の共通理解	21.4	28.7	54.5	27.9
「おおむね満足できる」状況や「十分満足できる」状況と判断される具体的な例などを想定した評価の実施	17.7	19.1	7.1	16.6
テスト問題の工夫	15.6	75.0	80.8	40.2
特になし	0.0	0.0	1.0	0.1
その他	0.0	0.0	0.0	0.0

各校種ともに、「単元の評価規準の設定」が、7割を超えている。また、小・中学校では、「学習カードやワークシートの工夫」や「ノートやワークシート等の記述の分析」、中学校・高等学校では、「テスト問題の工夫」において、7割を超えている。一方、各校種ともに、「評価計画の作成」、「評価時期の設定」、『おおむね満足できる』状況や『十分満足できる』状況と判断される具体的な例などを想定した評価の実施」が、1割、2割台、また場合により1割を下回っている。小学校では、「テスト問題の工夫」、小・中学校では、「評価に係る教師間の共通理解」が1割、2割台となっている。

設問3 設問2で選択した項目について、課題となっていることがあれば、自由に記述してください。

「共通理解を図り、統一した観点で評価していくことが課題である」とする記述が多く見られ、学級担任間、社会科教員間で検討し、「より具体的な評価の観点」を設定することが求められている。また小学校では、「(学級間)共通のワークシートの作成」、中・高等学校では、「テスト問題の工夫」が挙げられるなど、思考力・判断力・表現力を評価していくための「具体的な手立ての工夫」についての課題が見受けられる。

設問4 設問2で選択しなかった項目について、課題となっていることがあれば、自由に記述してください。

「単元を通した評価規準や評価計画の設定」や「評価に係る教員間の共通理解」など、計画的に評価を実施するに当たっての準備や進め方の研修が不足していることが、課題として多く挙げられている。また、思考力・判断力・表現力を育成するための「学習課題の設定」や「言語活動の位置付け」など、「適切な評価を行うための授業づくり」を行う必要性が記述されている。小学校では、「自作テストの在り方」、中・高等学校では「評価したことのフィードバック」、「評価時期・頻度」などの記述も見られる。

II 授業研究

【授業研究1】

社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会科学習指導と評価

ー小学校第5学年「米づくりのさかんな庄内平野」における目指す児童の姿を明確にした授業づくりを通してー

1 単元名 米づくりのさかんな庄内平野

2 単元の目標と観点別評価規準

我が国の農業について、「国民の食生活を支えていることや農産物の中には外国から輸入しているものがあること」、「日本の主な農産物の分布や土地利用の特色など」、「農業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きなど」を調査したり、地図や地球儀、資料から調べたりすることを通して、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えることができる。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国の米の生産の様子に関心を持ち、庄内平野を事例として意欲的に調べるとともに、国民生活を支える米の生産の発展を具体的に考えようとしている。	我が国の米の生産の様子について学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、米の生産が自然環境を生かしたり克服したりして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを考え、適切に表現している。	庄内平野を事例として我が国の米の生産の様子について地図、統計などの資料を活用するなどして必要な情報を集め、国民生活や自然環境との関わり、米の生産の工夫や努力、生産地と消費地とを結ぶ運輸などの働きを読み取って、白地図や作品にまとめている。	我が国の米の生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たし国民の食生活を支えていることや、米の生産は自然環境と深い関わりをもって営まれていること、米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解している。

3 単元の指導について

(1) 教材について

本単元では、日本の農業について、「様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること」、「我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など」、「食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き」について調査したり、地図や地球儀、資料などを活用して調べたりすることを通して、農業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていること及び自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにすることを目標としている。

(2) 児童の実態について

本学級では、社会科への関心が高く、意欲的に調べ学習に取り組むことができる児童が多い。しかし、与えられた資料での調べ学習は行えるが、自ら資料を収集するまでには至っていない。また表1(p. 7)をみると、自分の考えをまとめることができると答えた児童は16人いるが、考えの根拠となる資料を複数使って発表できる、

だいたいできると答えた児童は11人と少ない。これらのことから、児童は一つの資料を読み取ることはできるが、複数の資料を比較・関連付けすることが苦手であると考えられる。

4年生までの学習では体験的な学習が多かったが、5年生の社会科の学習では、社会的事象を資料から読み取り、複数の資料を比較・関連付け・再構成したり、推察したりして、概念的な知識を形成する学習が多い。そこで、様々な社会的事象から概念的知識を捉えるためには、資料を読み取り、読み取った結果を友達に伝えたり、友達の意見や考えを聞いたりすることを通して、社会的な思考力・判断力・表現力を育む必要があると考える。

本単元では、「日本の米づくりはピンチなのだろうか。自分の考えを表現してみよう。」という単元を貫く学習課題を設定する。学習課題の解決を図るためには、学習の見通しをもたせ、思考・判断・表現の機会を意図的・計画的に設定することで米づくりに関する社会的事象を多面的に考察させる必要がある。そこで、毎時間社会的事象の意味について資料から読み取り、関連付けて考える学習課題を設定し、単元を貫く学習課題の解決に向けた学習活動を行う。特に単元のまとめとなる第9時では、第8時まで活用した資料を再度見直し、日本の米づくりの現状と課題についての判断を資料を根拠として示し、説明する活動を行う。以上のように、複数の資料を比較・関連付けて読み取り、互いに考えを説明し合い、自分の考えを組み立て直したり、新たな問いをもったりする学習活動を通して、社会的な思考力・判断力・表現力を育てていきたい。

表1 調べ、考える学習に関する意識調査（平成26年6月15日実施 第5学年33人）

1	調べ学習の時に、いつも利用している資料は何ですか。（複数回答） 教科書18人 資料集18人 先生の資料14人 図書室の本3人 その他2人
2	調べ学習の時に、複数の写真やグラフを比べていますか。 いつも3人 ときどき5人 先生に言われた時22人 比べない3人
3	調べ学習の後、自分の考えをまとめることができますか。 できる16人 だいたいできる12人 あまりできない3人 できない2人
4	調べ学習の後に、2つ以上の資料を使って自分の考えを発表できますか。 できる3人 だいたいできる8人 あまりできない14人 できない8人
5	友達の意見や考えを聞いて、自分の考えを深めることがありますか。 いつもある7人 ときどきある14人 どちらかといえない10人 ない2人

(3) 主題に迫るための具体的な手立て

ア 児童が課題意識をもてる学習課題の工夫

第1時は、米づくりに関する写真やグラフを基に、様々な地域で米づくりが行われていることや生産量と消費量が減っていることに着目させることで、日本の米づくりに関して課題意識をもてるようにする。そして、児童一人一人が疑問に思ったことを類型化し、単元を貫く学習課題を設定する。各時間では、米づくりに関して多面的に捉えることのできる学習課題を設定し、課題追究型の学習を行う。単元のまとめでは、「米づくりを元気にする提案書」を作成する活動を通して、それまでに学習した内容をもう一度見直し、自分の考えを組み立て直す。そこで判断したことを資料を根拠として示し、説明できるようにする。以上のように、単元を貫く学習課題を設定し、課題追究に向けて資料を根拠として示した表現活

動を行うことで、社会的な思考力・判断力・表現力を育むことができると考える。
イ 評価を意識した単元計画の作成

指導と評価の一体化という観点から、単元計画を作成するに当たり、本単元で教師が目指す児童の姿を設定した。さらに、各時間ごとに目指す児童を具体的な姿で表記するとともに、そこへ近づけるための手立てを明記することで、指導のための評価を意識した構成とした。

目指す児童の姿 米づくりとわたしたちの食生活が結び付いていることについて、様々な資料を関連付け、資料を根拠として示し、自分の考えを表現できる児童			
時	・主な学習内容 ◎学習課題	社会的な思考力・判断力・表現力に関する評価規準 ----- 「おおむね満足できる」と判断できる基準 「努力を要する」と判断される児童への手立て -----	付けたい力
第1時	・米づくりについて学習計画をたてる。 ◎日本の米づくりはピンチなのだろうか。自分の考えを表現してみよう。 <立場>と<理由>を必ず示そう。	・資料を根拠として、日本の米づくりについて予想をしている。(思考・判断・表現) ・写真やグラフを根拠に、日本で米づくりが盛んである理由を地形や気候等から予想している。 ----- <ワークシート> ・下妻市ではどのような場所で米づくりが盛んであったのかを、しもつま農業マップの地形に着目させて川や平野と関連付けさせるようにする。	・様々な写真資料を基にして、なぜ様々な地域で米づくりが行われるのかを予想できる。
第2時	・庄内平野にはどのような特色があるのかを調べる。	・写真や地図などを参考にして、庄内平野は米づくりが盛んであることをまとめている。(観察・資料活用の技能)	・写真などから根拠を示し庄内平野の特色を指摘できる。
第3時	・庄内平野はなぜ米づくりが盛んになったのかを資料を基に判断する。 ◎なぜ庄内平野では米づくりがさかんになったのだろうか。	・酒田市と宮古市の自然条件の違いの要因は季節風や気温であることを、様々な方法で表現している。(思考・判断・表現) ・『なぜ宝の風がふくのか』や『宝の風がもたらす効果』について自分なりの言葉で説明している。 ----- <発表・ワークシート> ・既習事項である教科書P.22の地図を使って、地図帳で具体的な場所を確認させるようにする。	・酒田市と宮古市の雨温図や地図資料から、関係性を見いだすことができる。
第4時	・米づくりにはどのような工夫や努力があるのかを調べる。	・農作業カレンダーやデジタル教科書の動画から、米づくりにはたくさんの仕事があり、人々が工夫や努力をしていることを理解している。(知識・理解)	・動画から、農家の人々の意図や心情を推測し、理解できる。
第5時	・米づくりにはさまざまな立場の人の思いや願いがあることを考える。 ◎米づくりに関するお祭りには人々のどのような思いがこめられているのかを考えてみよう。	・米づくりには人々のつながりが欠かせないことを表現している。(思考・判断・表現) ・米づくりにかかわる人々の思いや願いについて「おいしい米」や「いのちのつながり」というキーワードを使って表現している。<発表・ワークシート> ・東京では銀座のビルでも田植えが行われていることや、区長さんが向山田植えの授業を行っていたことを写真や資料から想起させるようにする。	・写真や動画資料から、米づくりにかかわる人々のつながりや、それぞれの立場での思いや願いを推測し、表現できる。
第6時	・よりよい米づくりのために、どのような協力をしているのかを調べる。	・人々が協力したり、ヘリコプターやコンバイン等を使ったりすることで、仕事が効率的になることを理解している。(知識・理解)	・動画の資料から、ヘリコプターで農薬をまく理由について、予想を立てることができる。
第7時	・農家の人たちの行っている工夫や努力を支えるしくみについて調べる。	・動画や資料から、品種改良は農家やそれを支える人たちが行っている工夫や努力の一つであることを見出ししている。(観察・資料活用の技能)	・写真や動画資料から、おいしい米づくりをするための農家の意図や心情を推測できる。
第8時	・全国に米が届けられるしくみを調べる。	・地図資料や写真資料から、庄内米の輸送手段や経路には複数の方法があったり、米の値段には複数の要素が含まれたりすることを見いだしている。(観察・資料活用の技能)	・地図や写真から、米の値段には複数の要素が含まれていることについて見いだすことができる。
第9時 本時	・これからの米づくりについての提案を考え、根拠を示しながら発表する。 日本の米づくりは○○だ と思います。そこで▲▲ という案を考えてみました。 この案のいい点は□ □な点です。-----	・ここまで追究してきた学習内容を根拠として、自分なりに見いだした私案を表現している。(思考・判断・表現) ・既習事項や資料を取り込み、自分なりに考えたことを、文章や図、グラフなどを根拠として示し表現している。<発表・ワークシート> ・友達の提案の中で、自分がなるほどと思った案を取り入れながら記述させるようにする。	・ここまで追究してきた学習内容を組み立て直して、自分のまとめたことを様々な方法で表現できる。

※太線囲みの時間は本研究に関する授業である。

4 本時の指導

(1) 目標

単元を貫く学習課題「日本の米づくりはピンチなのだろうか」について、追究してきた学習内容を根拠として、自分なりに見いだした試案を表現することができる。

(2) 準備・資料

ワークシート、デジタル教科書、しもつま農業マップ、庄内平野の米づくり、東京都・大阪府・島根県・鹿児島県・茨城県の写真資料、掛け地図、農業とわたしたちの暮らし、（ここまでの学習で使用した資料）

(3) 展開

学習活動・内容	教師の支援・手立て及び評価 ◇評価
<p>1 ここまでの学習内容を振り返る。</p> <p>○ 単元を貫く学習課題「日本の米づくりはピンチなのだろうか。自分の考えを表現してみよう」について自分の立場をネームプレートで表す。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本の米づくりはピンチなのだろうか？ これからの米づくりについてもっと元気にする提案を考え、発表しよう。</p> </div> <p>3 「米づくりを元気にする提案書」を作成する。</p> <p>(1) 提案書をレポート用紙に作成する。 (個人) <参考となる資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の生産量と消費量の変化 ・生産調整による小麦畑の写真 ・東京都で行われている体験学習の写真 ・しもつま農業マップ ・お祭りの写真 ・農業従事者の年齢構成のグラフ など <p>(2) 提案書をグループ内で発表し合う。 (グループ)</p> <p>4 日本の米づくりをもっと元気にするアイデアを発表する。 (全体) <想定される発表のための資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の動画 ・教室内の掲示資料 ・東京都で行われている体験学習の写真 ・しもつま農業マップ ・お祭りの写真 ・農業とわたしたちの暮らし（JAバンク） ・掛け地図 ・新聞記事 <p>5 本時のまとめをし、次時の学習を知らせる。</p> <p>(1) 単元の振り返りを記入する。</p> <p>(2) 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が作成したプレゼンテーション資料や写真、デジタル教科書を活用し、既習事項を想起させるようにする。 ・現在の自分の立場を明らかにすることで、この後の学習がスムーズに流れるように助言する。 ・単元を貫く学習課題について、それぞれの立場や、視点を明らかにさせるようにする。 ・学んだ時間ごとに自分の立場が揺れてきたことに触れピンチかそうでないかの結論を出すことにより、良い方向になる提案が出せるように助言する。 ・実現可能でない場合は、どのような点が実現可能でないのかを指摘し合えるように助言する。 ・どのような工夫や努力をしていたかについて、米づくりに従事する人々の思いを想起させるようにする。 ・資料を自由に選択させ、複数の資料のつながりや関係性が明確になるように助言する。 ・意見やアイデアがまとまらないと予想される児童には教科書の事例を紹介することで発想が広がるように助言する。 ・自分の意見がまとまらない段階でグループ学習に移行した児童には、グループ内で参考になった意見を取り入れ、「○○さんと同じアイデアですが・・・」という形で書けるように助言する。 ・提案の根拠にデジタル教科書の動画を利用する児童がいる場合には、発表を支援する。 ・写真の差異を指摘する児童がいる場合には、指し棒などで明確にその場所を差し示せるように助言する。 ・授業で取り上げた資料以外のものを活用する児童がいる場合には、資料のある場所を丁寧に提示したり、実物投影機を活用したりしてより理解しやすくなるように補足する。 ・提案発表する際には、結論、理由の順で発表するスタイルに統一し、意見の比較が容易になるように助言する。 ・TPPについての意見が出た場合には、児童の発達段階を考慮し、深入りしない。 <p>◇既習事項や資料を取り込み、自分なりに考えたことを、文章や図、グラフなどを根拠として示し表現している。 (発表・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらの立場の考えも正しいことを補足し、色々な見方ができたことが本単元の成果であることを助言する。 ・次時からは水産業についての学習であることを予告し関心を高める。

5 授業の分析と考察

(1) 児童が課題意識をもてる学習課題の工夫

学級活動の時間に食育として行った栄養教諭の講話では、その日の給食の食材を

児童に紹介し、産地を地図で確認した。「米飯用の米や味噌汁の中の具材は下妻市で採れる物を使っています。地産地消って言うんだよ」と聞き、単元のキーワードの一つである「地産地消」について知ることができた。また、「しょうゆやみそ、油揚げの材料はほとんど外国から輸入されたものなんだよ」と聞き、「輸入農産物が多い」ということを知り、「しょうゆやみその原料は何ですか」や「どうして地産地消じゃないの」などの疑問が生まれた。学習に入る前の段階で、児童に食料についての課題意識をもたせることに効果的であった。資料1のように食料自給率が低いことや地産地消の良さについての講話を行ったことは、学習意欲を高め思考を促す上で有効であった。

資料1 栄養教諭講話の様子



第1時の導入時には、日本の米の生産量と消費量の推移のグラフ、下妻市近隣で小麦畑と水田が隣接している写真、東京都のビルの屋上で田植えをしている写真などを提示し、日本の米づくりの現状を捉えさせる話し合い活動を行った。すると、児童は資料2のように、数字や写真から、米の生産量と消費量が減少していることを捉えることができた。ここで、単元を貫く学習課題「日本の米づくりはピンチなのだろうか」を提示した。この後の学習では、自分の立場や根拠を明確にして考える学習を繰り返した。単元終了後の授業の感想から資料3のように、学習を進めていく中で思考が揺さぶられ、考えが変わったり、複数の資料を読み取ったりする様子が見られた。このような記述は27人の児童のワークシートから見られた。以上のことにより、児童に課題意識をもたせる学習課題の設定は、児童の主体的な学習を促し、社会的な思考力・判断力・表現力を育成することに有効であったと考える。

資料2 児童の記述例

- ・米の消費量はどんどん減っている。
- ・米の生産量は年々減っている。
- ・なぜ東京では屋上で米を作るの。
- ・今は小麦の方が食べられるの。
- ・東京にも田んぼがあつてびっくり。
- ・なぜ米と小麦が隣り合わせなの。

資料3 ある児童の感想

最初米づくりは消費量が減っていてピンチだと思った。でも少ない人数でも機械を使って作っているのでピンチではないと思った。でもあとつぎがないのはピンチだと思う。あとつぎを増やせないかな？

(2) 評価を意識した単元計画の作成

ア 付けたい力を表した単元の学習計画表

資料4のように身に付けてほしい力を明記した単元の学習計画表や授業で使用した資料を教室に掲示しておき、児童が確認しながら学習を進められるようにした。「今日は写真を比較するんだ」「グラフの読み取りって難しそう」、「二つを関係付けるってどんなことをやればいいのか」など

資料4 単元の学習計画表の一部

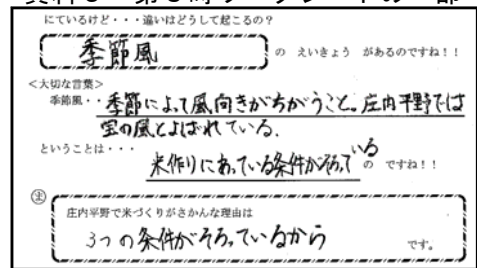
「米づくりのさかんな庄内平野」単元の学習計画表		
時	学習課題	身につけてほしい力
0	肥後先生の話を聞いて、稲食のふるさとを知ろう！	地図を読みとる力
	<p>私たちが毎日のように食べている「米」は日本の色々な場所で、色々な工夫や努力によって作られています。P.65の資料をみると・・・</p> <p><単元全体を通して考えること></p> <p>日本の米づくりはピンチなのか？ピンチでないのか？</p> <p>(学習を進めながら自分の考えをもてるようになろう！)</p>	
1	この単元の学習で調べてみたいこと、疑問に思ったことをまとめよう！	<p>写真から予測をする力</p> <p>調べてみたいことを整理する力</p>
2	庄内平野はどんな場所なのでしょう？	資料から全国と庄内平野を比較する力
3	なぜ庄内平野は米づくりがさかんになったのでしょうか？	宮古市と酒田市を比べ米と〇〇の関係性を身につけさせる力

のつぶやきが多くなり、概念的な知識を形成しようとする態度が見受けられたことから、単元の学習計画表の作成は思考力を高めるために有効であったと考える。

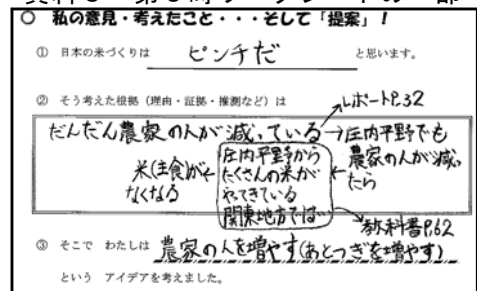
イ 付けたい力を見取りやすいワークシート

資料5は第3時で使用したワークシートである。Bと判断できる基準を「『なぜ宝の風がふくのか』や『宝の風がもたらす効果』について自分なりの言葉で説明できる」とし、評価しやすいようにワークシートの項目を工夫した。また、資料6は第9時で使用したワークシートである。ここでは、Bと判断できる基準を「文章や図、グラフなどを根拠として示し自分の考えを表現している」とし、自分の意見の他に、根拠なるもの及びその裏付け資料の掲載ページを書かせて、根拠が明確であるかを判断した。また、授業者が違っても同じ評価をすることが可能となるように、ワークシートの項目のどの場所を見取れば判断できるのかを明確にした。実際に複数教員で評価し合ったところ、評価結果がほぼ同じものとなった。Bと判断できる基準を明確にして、付けたい力が見取りやすいワークシートを作成したことは、適切に評価することに有効であった。

資料5 第3時ワークシートの一部



資料6 第9時ワークシートの一部



6 授業研究の成果と課題

(1) 成果

ア 児童が課題意識をもてる学習課題の工夫

単元を貫く学習課題を設定し、付けたい力を明記した学習計画表を教室に掲示したことは、「資料を読み取り、事実を認識する」、「認識した事実を解釈し、判断する」、「解釈したことの根拠を示して表現する」という課題追究の一連の学習過程をスムーズに行うことに有効であった。

イ 評価を意識した単元計画の作成

(ア) 付けたい力を明記した学習計画表を教室に掲示したことは、児童が学習の見通しをもつことができ、児童の学習意欲を喚起、持続させることに有効であった。

(イ) 単元計画に判断の基準を明記したことで、授業者が代わっても、妥当な評価をすることができ、評価の信頼性を高めることに有効であった。

(2) 課題

授業では、社会的な思考力・判断力・表現力を育む授業づくりを行い、力が付いた児童の具体的な姿を設定し、力を見取ってきた。しかし、授業づくりを行う上では、教師の見取りが正確であるかを裏付ける客観性の高い評価問題の作成も併せて考えなければならない。

【授業研究 2】

社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会科学習指導と評価

－中学校第 1 学年地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」における目指す生徒の姿を明確にした授業づくりを通して－

1 単元名 世界各地の人々の生活と環境

2 単元の目標と観点別評価規準

世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関係付けて考察し、世界の人々の生活や環境の多様性を理解することができる。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界各地の人々の生活と環境の多様性に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	世界各地の人々の生活と環境の多様性を、自然及び社会的条件と関連付けた人々の生活の様子とその変容を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関する様々な資料から、有用な情報を適切に読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界各地の人々の生活と環境の多様性について、自然及び社会的条件と関連付けた人々の生活の様子とその変容を理解し、その知識を身に付けている。

3 単元の指導について

(1) 教材について

本単元は、地理的分野の内容（1）世界の様々な地域「イ 世界各地の人々の生活と環境」を受けて、世界各地の人々の生活の様子を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に自然及び社会的条件と関係付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させることを主なねらいとしている。

(2) 生徒の実態について

表 1 の意識・実態調査から本学級の生徒は、資料を読み取り、主体的に学習課題を解決していく学習が好きな生徒が多い。これは、小学校時に日本とつながりの深い国の生活や文化の様子を調べる学習を経験してきたからであると考えられる。しかし、写真を比較して違いや共通点を見付けることができた生徒は 3 人であることから、資料を読み取ったり、関連付けたり

表 1 資料の読み取りに関する意識・実態調査
(平成 26 年 6 月 30 日実施 第 1 学年 34 人)

1	地図やグラフ、写真等を読み取り、学習課題について考えることは好きですか。 ----- 好き 9 人 少し好き 17 人 少し嫌い 8 人 嫌い 0 人
2	グループ学習で、話し合いや意見交換をすることは好きですか。 ----- 好き 6 人 少し好き 18 人 少し嫌い 8 人 嫌い 2 人
3	東京と他都市の気候グラフから分かることを読み取る。 ----- 3 つ以上の視点から読み取っている 7 人 2 つの視点から読み取っている 19 人 1 つの視点から読み取っている 8 人
4	イヌイットの生活について、2 枚の写真を見て分かることを読み取る。 ----- 比較して読み取っている 3 人 それぞれを読み取っている 28 人 適切に読み取れていない 3 人

する力は不足していると考えられる。本単元では、小学校での経験を生かしながら、世界

の様々な地域の人々の暮らしを多面的・多角的に考察し、読み取った事象を関連付けて考察することが重要であると考え。そこで、実際の授業では、世界各地の写真や産業に関するグラフ、雨温図等から読み取った社会的事象を関連付けて考察し、説明し合う活動を通して、世界各地における人々の生活や環境の多様性について理解させることをねらいとする。そのためには、生徒一人一人の学習状況を的確に把握し、指導の改善に生かす評価が必要である。そこで、具体的で明確な評価を意識した授業計画や評価結果を生かした生徒への学習指導の工夫を行っていきたいと考え、本主題を設定した。

(3) 主題に迫るための具体的な手立て

ア 生徒が課題意識をもてる学習課題の工夫

本時では、写真資料「サヘル naturally の様子」、統計資料「サヘル地域の国民所得」の読み取りを通して、生徒の気付き、疑問を学習課題として設定することで解決への意欲を高める。さらに、考察の視点として「井戸を設置するのはなぜか」、「植林やかまどを設置するのはなぜか」、「学校をつくるのはなぜか」の三つを設定し、サヘルの人々の生活についてそれぞれの視点から考察していく。その後、それぞれの視点から捉えたサヘルの人々の生活について関連付けたことをグループで説明し合ったり質問し合ったりすることで、学習課題の解決を図る。さらに、理解を深めるために、「この地域に今必要な取組は何か」といった新たな学習課題を設定して自分の考えを組み立て直し、サヘル地域の人々の生活の特徴と変化について、様々な資料から自分が読み取ったことを根拠として自分の言葉で表現する。以上のように、課題意識をもつことができる学習課題を設定し、読み取った社会的事象を関連付ける学習活動を行うことで、社会的な思考力・判断力・表現を育むことができると考える。

イ 評価を意識した単元計画の作成

指導と評価の一体化という観点から、単元計画を作成するに当たり、本単元で教師が目指す児童の姿を設定した。さらに、各時間ごとに目指す生徒を具体の姿で表記するとともに、そこへ近づけるための手立てを明記することで、指導のための評価を意識した構成とした。

目指す生徒の姿 世界の人々の生活の様子とその変容について、自然や社会の様子と関連付けて考察し説明することができる生徒			
時	主な学習内容 ◎学習課題	思考力・判断力・表現力に関する評価規準 「おおむね満足できる」と判断できる基準 努力を要すると判断される生徒への手立て	付けたい力
第1時	・単元を貫く学習課題をつかむ。	・世界各地の人々の生活と環境の多様性に対する関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。 (関心・意欲・態度)	・人々の生活の様子やその変容を調べようとする意欲をもつことができる。
	世界各地の人々は、どのようにしてその土地の環境と向き合い、生活しているのだろう。		
第2時	◎日本とイタリアでは生活にどのような違いがあるのだろう。	・イタリアの人々の生活と環境の多様性に関する資料から有用な情報を読み取っている。(資料活用の技能)	・イタリアの人々の生活や環境の様子について、資料から読み取ることができる。
第3時	◎シベリアで建物が高床式になっ	・シベリアの住居に見られる特色について、自然環境と関連付けて考察し、適切に説明している。	・シベリアの人々の生活について、

時	ているのはなぜだろう。	(思考・判断・表現) ・寒暖差が大きい気候のため、夏は永久凍土の表面が溶けて家の土台がゆがむので、それを防ぐための工夫であることを説明している。 ・夏に永久凍土の表面が溶けるとその上に建っている住居はどうなるかを、資料集の図を指し示して考えられるようにする。	自然環境と関連付けて考察し、説明することができる。
第4時 本時	◎サヘルの人々は厳しい生活にどのような向き合っているのだろう。	・サヘルの人々の生活の様子とその変化について、自然環境と社会環境を関連付けて考察し、適切に説明している。(思考・判断・表現) ・サヘルの人々の生活の様子とその変化について、砂漠化が進む自然環境、農業の変化、教育の広がりといった事象を関連付けて考察し、説明している。 ・井戸を掘る理由は、水汲みや農業の様子の写真、気候図を関連付けて考えられるようにする。 ・植林やかまどの設置理由は、焼畑農業の様子や砂漠が拡大している写真、かまどの有効性と関連付けて考えられるようにする。 ・学校を建設する理由は、中・高等学校への進学率や国民総所得のグラフから考えられるようにする。	・サヘルの人々の生活の様子とその変化について、自然環境と社会環境を関連付けて考察し、説明することができる。
第5時	◎1年中暑いフィジーの人々は、どのような生活をしているのだろう。	・フィジーの人々の生活の様子とその変化について、自然環境と社会環境を関連付けて考察し、適切に説明している。(思考・判断・表現) ・フィジーの人々の生活の様子とその変化について、高温多雨で島国といった自然環境と関連付けて考察し、「食の様子」、「住居の変化」、「観光業の発展」のうち、一つの社会的事象について説明している。 ・高温多雨で島国といった自然環境と、社会環境(果物畑やマグロ漁業等の産業)の写真資料から、住居の工夫や食文化について関連付けて考えられるようにする。	・フィジーの人々の生活の様子とその変化について、自然環境と社会環境を関連付けて考察し、説明することができる。
第6時	◎アンデスの山に暮らす人々は、どのような生活をしているのだろう。	・アンデスの人々の生活の様子とその変化について、自然環境と社会環境を関連付けて考察し、適切に説明している。(思考・判断・表現) ・アンデスの人々の生活の様子について、高山特有の自然環境と関連付けて考察し、衣、食、住の事象のうち、一つの社会的事象について説明している。 ・高山特有の自然の様子と、農業を行っている人々の写真を関連付けて考えられるようにする。	・アンデスの人々の生活の様子について自然の様子と関連付けて考察し説明することができる。
第7時	◎バンコクでも高床式の住居が見られるのは、どうしてだろう。	・バンコクの人々の生活の様子とその変化について、自然環境と社会環境を関連付けて考察し、適切に説明している。(思考・判断・表現) ・川には堤防がなく増水に備えたつくりになっていることや、川が主な交通路のため舟で直接出入りできるような工夫が見られることについて、説明している。 ・写真資料から、川が主要な交通路になっていることに気付かせるようにする。	・バンコクの人々の生活の様子とその変化について、自然や社会の様子と関連付けて考察し、説明することができる。
第8時	◎カナダ北部のイヌイットの人々はどのような生活をしているのだろう。	・イヌイットの人々の生活の様子とその変化について、自然環境と社会環境を関連付けて考察し、適切に説明している。(思考・判断・表現) ・イヌイットは伝統的な狩りを中心に生活をしてきたが、最近では資源開発に伴う定住化が進み、生活も近代化が急速に進んでいることを説明している。 ・資源開発の資料から、生活の変化に気付かせるようにする。	・イヌイットの生活の様子とその変化について、自然や社会の様子と関連付けて考察し、説明することができる。
第9時	・世界の宗教について調べる。	・4大宗教の特色を調べ、その特色を理解している。(知識・理解)	・4大宗教の特色を理解することができる。
第10時	・世界各地の人々の生活の様子と変化を地図にまとめる。	・人々は各地域の自然環境と向き合い工夫しながら生活していることや、伝統的な生活を守りながらも生活向上のために近代化を図っていることについて理解している。(知識・理解)	・世界の人々の生活や環境の様子を理解することができる。

※太線囲みの時間は本研究に関する授業である。

4 本時の指導

(1) 目標

サヘルの人々が、厳しい生活にどのように向き合い、どのような生活の変化が見られるのかを自然環境と社会環境を関連付けて考察し、説明することができる。

(2) 準備・資料

白地図, 写真資料, ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	教師の支援・手立て及び評価 ◇評価
<p>1 資料から学習課題をつかむ。 ○資料から自然や社会の様子を読み取る。 ・資料①写真「サヘルの自然の様子」 ・資料②統計「サヘル地域の国民総所得」</p> <p>◎サヘルの人々は、厳しい生活にどのように向き合っているのだろうか。 ○予想を立てる。 ・さばく化を防ごうとしているのでは。 ・産業を発展させようとしているのでは。</p> <p>2 課題について考察し、説明し合う。 ○考察の視点を各自で選択し、自然環境や生活の様子に関する資料を基に考える。</p> <p><考察の視点> ・「井戸を設置するのはなぜだろう」 ・「植林やかまどの設置をするのはなぜだろう」 ・「学校をつくるのはなぜだろう」</p> <p><考察のための資料> ・資料⑦グラフ「気温と降水量」, ・資料⑧写真「オアシスでの水汲み」 ・資料⑨統計「ブルキナファソの井戸の普及率」 ・資料⑩写真、「広がるとうもろこし畑」 ・資料⑪写真「稲作の様子」 ・資料⑫写真、「焼畑農業」 ・資料⑬写真「さばく化を防ぐ様子」 ・資料⑭グラフ「中学・高校の就学率」</p> <p><生徒の考察例> 井戸を設置することについて、資料⑦と⑧と⑨を関連させて考えました。サヘルは雨が少なく乾燥しており、オアシスで水を汲まなければ生活できません。井戸の普及率が低いので、井戸の設置により水を手に入れやすくすることで生活をよりよくしているのだと考えました。</p> <p>3 グループで再考察する。 <話し合いの手順> ・互いに考えを発表し合うことで、自分が選択していない視点について学び合う。 ・3つの視点の中で今サヘルに最も必要な取組は何かを考える。</p> <p>4 グループごとに発表し、まとめる。 <まとめ方の手順> ・各グループごとに最も必要な取組とその根拠を中心に発表する。 ・各グループの考えを基に、サヘルの人々が厳しい生活にどう向き合っているのかについてまとめる。</p> <p>サヘルでは、○○な様子が見られる。□□な取組を行うことで厳しい生活に向き合っていて△△な変化が見られるようになった。</p>	<p>・前時で使った白地図でサヘル地域の位置とそこにある国について確認する。 ・資料①や②を関連付け、サヘル地域が経済的に厳しい状況にあることを気付くように助言する。</p> <p>・以下の資料を提示して、考察のための視点を明確にする。</p> <p>資料③写真「井戸を設置する様子」 資料④写真「植林する様子」 資料⑤写真「かまどを設置する様子」 資料⑥写真「学校での授業の様子」</p> <p>・井戸を掘る理由について、水汲みや農業の様子の写真、雨温図から読み取ったことを関連付けて考えるように助言する。 ・気候グラフからステップ気候の特徴を助言する。 ・かまどの仕組みについて説明する。 ・就学率が低いから学校をつくっていると考えている生徒には、学校で何を学んでいるかを考えるように助言し、植林も学校を中心とした取組であることに気付かせる。 ・焼畑農業を説明し、砂漠化が進む要因であることに気付かせる。 ・根拠を明確にして説明させるために書き方の例をワークシートに示しておく。 ・グループで話し合ったことはミニホワイトボードに書くよう助言する。 ・サヘルに必要な取組について根拠を明確に説明するよう助言する。 ・生活がどう変化しているかに着目してまとめるよう助言する。 ・人々の生活を否定的に捉えることがないように配慮する。</p> <p>◇サヘルの人々の生活の様子とその変化について、砂漠化が進む自然環境、農業の変化、教育の広がりといった事象を関連付けて考察し、説明している。 (ワークシート)</p>

5 授業の分析と考察

(1) 生徒が課題意識をもてる学習課題の工夫

本時では、まず、2点の資料から疑問点や気付いたことを発表し合い、学習課題「サヘルの人々は厳しい生活にどのように向き合っているだろうか。」を設定した。生徒は自分たちの疑問を解決する学習であることから、自分の調べたこと、考えたことを伝えたいという意欲をもつことができた。その後、「井戸を設置するのはなぜだろう」、「植林やかまどの設置をするのはなぜだろう」、「学校をつくるのはなぜだろう」といった三つの考察の視点から学習課題解決に迫っていくこととした。次に、考察するための資料から必要な資料を選択し、そこから読み取った事象を関連付けることで課題解決を図った。視点を明確にしたことや記述例を示したことで、33人中28人が社会的事象を関連付けて考察して、資料1のように記述することができた。これらのことから、考察の視点を明確にして課題を設定したことは、読み取った事象を関連付けて考察し、サヘル地域の生活や環境の様子とその変容を捉えることに有効であったと考える。

各自が考察したことは、資料2のようにグループで説明し合った。自分が選択していない考察の視点からの内容については、他者の説明を聞いたり、質問したりすることで理解した。次に、サヘルの人々の生活や環境の様子と変容についての理解を深めるために、「人々の取組の中で、最も重要と思われるものは何か」について話し合う場面を設定した。

資料3は、生徒ア・イ・ウが属するグループの話し合いの過程である。井戸の設置や植林、学校をつくるといった取組の必要性について考察し直し、最も重要なものが何であるかを根拠を明確にして説明していることが分かる。課題意識をもてる学習課題を設定したことは、生徒の意欲を喚起し、資料を読み取り、根拠を明確にして説明し合う学習活動を促し、社会的な思考力・判断力・表現力を育むと共に理解を深めることにも有効であったと考える。

資料1 生徒の記述例

「井戸を設置するのはなぜだろう」について
生徒ア：気候グラフと稲作の様子の資料を関連させて考えました。それは、サヘル地域は1年中気温が高く降水量が少ないので雨水がたよりの稲作では収穫が少なくなってしまいます。それを防ぐために井戸を設置したのだと考えました。
「植林やかまどの設置をするのはなぜだろう」について
生徒イ：焼畑農業と砂漠化を防ぐ様子の資料から考えました。植林は焼畑農業が原因の砂漠化を防ぐためだと考えました。かまどの改良も、たきぎをへらすことで植林も成功させるためだと考えました。
「学校をつくるのはなぜだろう」について
生徒ウ：就学率や砂漠化を防ぐ様子から考えました。サヘルでは就学率がとても低いです。教育がないと国は発達しないので日本などの力を借りて学校をつくったと考えました。植林は学校を中心に行われているので、そういった技術を広めるためにも学校が必要だと思えます。

資料2 説明し合う生徒の様子



資料3 グループによる話し合いの過程

井戸の設置が最も必要です。なぜなら、人の生活には水が必要です

↓

水があると植物も育ちます

↓

植物が育てば砂漠化が防げます

↓

学校の教育でこの取組を広げられます

↓

人の生活が豊かになります
だから、井戸の設置が最も必要です。

(2) 評価を意識した単元計画の作成

表2は、第4時の生徒のまとめを判断の基準に照らし合わせ、評価した結果である。この結果から第5時では、説明することができなかった生徒が事象を関連付けて考察し、説明できるようにする工夫が必要である。そこで、考察の視点を食・住・観光の三つに絞り、焦点化を図るとともに、グループ全員が同じ視点で考察し、説明し合う展開とした。資料4の生徒エは第4時ではC評価であったが、第5時ではグループで学び合うことにより、資料4のようにフィジーの食文化について、自然の様子と農業・漁業の様子を関連付けて考察することができた。住や観光の様子についても他のグループの説明から学び、フィジーの生活の様子とその変容について自分の言葉でまとめることができた。その結果、表3のように第5時ではC評価の生徒は見られなかった。

このように、判断する基準を基に各時の学習における付けたい力が付いた生徒の姿を明確にしたことで、個々の生徒の学習状況を的確に把握し、指導や手立てを見直すことができ、社会的な思考力・判断力・表現力の育成につながったと考える。

6 授業研究の成果と課題

(1) 成果

課題意識をもてる学習課題を設定したことで、生徒は、調べ、分かったことを伝えたいという意欲が高まり、読み取り・関連付け・考察を主体的に行うことで、社会的な思考力・判断力・表現力を育むことができた。また、評価を意識した単元計画を作成し、評価したことを、教師の手立ての見直しに活用することは、生徒一人一人の社会的な思考力・判断力・表現力を育むことに効果的であった。

(2) 課題

グループ学習では、全員が同じ記述になりがちであった。グループ活動の中でどのように生徒が思考して、概念的な知識を身に付けたかを見取る評価方法について課題となった。

表2 第4時のまとめに関する評価の結果
(平成26年7月15日実施 第1学年33人)

A	3つ以上の事象を関連付けて考察し説明している。	18人
B	サヘルの人々の生活の様子とその変化について砂漠化が進む自然環境、農業の変化や教育の広がりといった事象と関連付けて考察し説明している。	14人
C	事象を関連付けて考察し説明することができていない。	1人

資料4 第4時C評価の生徒エの第5時の記述

フィジーの食の様子について	
フィジーは降水量が多いので、農業がさかん。市場には、果物や野菜がならぶ。新鮮な魚介類も多くマグロは日本にも輸出している。	
フィジーの生活の様子と変化について	
フィジーは、暑く降水量が多い気候なので、果物などの作物が多くとれる。島の周辺はさんごしょうで、観光客が多く、最近ではコンクリートのホテルなどもふえてきた。	

表3 第5時のまとめに関する評価の結果
(平成26年7月17日実施 第1学年33人)

A	二つ以上の事象と関連付けて考察し説明している。	26人
B	フィジーの人々生活の様子とその変化について、高温多雨な島国といった環境と、食の様子、住居の変化、観光業の発展といった事象のうち一つの事象と関連付けて考察し説明している。	7人
C	事象を関連付けて考察し説明することができていない。	0人

【授業研究3】

社会的な思考力・判断力・表現力を育む地理歴史・公民科学習導と評価
—高等学校第1学年公民科現代社会「現代社会と人間の在り方生き方」における目指す生徒の姿を明確にした授業づくりを通して—

1 単元名 現代社会と人間の在り方生き方

2 単元の目標

青年期の生き方について、地方行政の在り方を資料から考察することを通して、現代社会における青年の生き方について自覚を深めることができる。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
青年期に対する関心を高め、自己形成の課題を意欲的に追究し、現代社会に生きる青年としての自己の生き方について考察しようとしている。	青年期に関する諸事象から課題を見だし、自己形成の課題と現代社会における青年の生き方について幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断してその過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	生涯における青年期の意義、社会参画などについて理解し、その知識を身に付けている。

3 単元の指導について

(1) 単元について

本単元は、「現代社会と人間の在り方生き方（2）ア 青年期と自己の形成」を受け、自己の内面形成と社会との関わりに着目させながら自己形成の課題を考察させ、青年としていかに生きるかを考察することの大切さについて自覚させることを主なねらいとしている。本単元で取り扱う少子高齢化の問題は現代日本社会の最重要課題であり、将来の国家の在り方にかかわる問題である。具体的には、自己と社会との関わりを実感させるために、仮想の地方自治体の政治について考えさせる。その際に、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養えるように、これからの社会の中心として活躍が期待される生徒に、この課題を通して青年としての生き方を自覚させることがねらいである。

(2) 生徒の実態について

「現代社会」は、生徒にとって、身近な社会的事象を考察する学習である。しかし、表1（p.19）の意識・実態調査を見ると、新聞を週に1回以下しか読まない生徒が31人いることから、本学級では政治や経済などに興味をもっている生徒は少なく、自分たちにとって身近な問題になっていないと考える。さらに、自分が将来社会でどのような役割を担っていくべきかについて考えた生徒は2人と非常に少数である。高校生にとって社会はまだ遠いと感じているためであると考えられる。

一方で、学習活動についての回答では、自分の考えを資料等から判断してまとめ、

表現する活動については26人が得意若しくは少し得意と答えている。小学校や中学校において調べ学習や主体的な学習を経験し、学習の進め方が分かっているためと考える。

本単元では、仮想の地方自治体の活性化について方策を考える学習活動を設定し、社会と自己との関わりに着目し、社会参画する態度を育てたい。また、社会の維持や社会の発展について考察し、判断する学習活動を通して、自己実現を可能にすることができることなどを理解させ、どのように社会的役割を担っていくのかを考察させたい。

(3) 主題に迫るための具体的な手立て

ア 生徒が課題意識をもてる学習課題の工夫

「自分たちの地方自治体の未来は？」という単元を貫く学習課題を設定し、毎時間の学習のねらいを明確にする。本単元では、生徒が課題意識をもち、主体的な学習を促すために、調べ考える学習を進める。授業では、架空の地方自治体である桜ノ牧市を設定し、市議会で市長答弁を行う学習活動を設定する。市長答弁を作成する過程で、少子化、高齢化、過疎化という三つの側面から考察させる。また、生徒がそれぞれ作成した市長答弁原稿内容を基にグループ（以下、「会派」という。）分けをする。各会派は上記の3点に関して同じ優先順位をつけた生徒によって構成する。ここで各自の意見を持ち寄り、多角的な見方でよりよい答弁を完成させる。そして、各会派から代表者の市長を選出し、議会答弁に臨む。模擬議会においては市長が政策を発表し、他会派の生徒（以下、「議員」という。）からの質問を受け、討論する。生徒は各会派の主張や討論の内容をメモに取り、自分の考えとは違う他会派の意見を聞き、質問をすることでより多角的に考察する。

このような活動を通して、生徒は資料を基に自分の考えを組み立て、優先度を判断することで、自分たちの世代がこれから社会の中でどのような役割を果たすべきかを考察し、具体的に表現することができると思う。

イ 評価を意識した単元計画の作成

指導と評価の一体化という観点から、単元計画を作成するに当たり、本単元で教師が目指す児童の姿を設定した。さらに、各時間ごとに目指す生徒を具体の姿で表記するとともに、そこへ近づけるための手立てを明記することで、指導のための評価を意識した構成とした。

目指す生徒の姿 身近な地方自治体の問題を考えることを通して、自己と社会との関わりを実感し、社会の形成に参画する青年としての生き方を自覚できる生徒			
時	・主な学習内容 ◎学習課題	社会的な思考力・判断力・表現力に関する評価規準	付けたい力
		「おおむね満足できる」と判断できる基準 努力を要すると判断される生徒への手立て	
第	・学習課題を理解し、	・新聞資料などを参考にして少子高齢化につ	・新聞資料を用いて少子

表1 社会への興味・関心に関する意識・実態調査
(平成26年5月14日 第1学年40人)

1	どの程度の頻度で新聞を読んでいますか。 毎日0人 2～3日に一度2人 週1回程度7人 週1回以下31人
2	自分が将来社会の中でどのような役割を担っていきべきか考えたことがありますか ある2人 ない38人
3	資料を基に自分の考えをまとめ、表現することは得意ですか。 得意6人 少し得意20人 少し苦手10人 苦手4人

1時	学習計画を立てる。 「自分たちの地方自治の未来は？」	いての情報をまとめている。 (観察・資料活用の技能)	高齢化の問題点を指摘できる。
第2時	・少子化・高齢化・過疎化に関する資料から、日本社会の現状を多面的・多角的に読み取る。	・桜ノ牧市の基本情報から、市が抱える少子高齢化の実情と問題点を見出している。 (観察・資料活用の技能) ・少子高齢化が現在社会の最重要課題であることを理解している。 (知識・理解)	・桜ノ牧市の基本情報から、市が抱える少子化・高齢化・過疎化のそれぞれの問題点を読み取ることができる。
第3時	・生徒個人が収集した新聞資料から、少子高齢化の問題点や解決策についてまとめる。	・少子化・高齢化・過疎化において優先的に取り組むべき課題について多面的・多角的に考察して順位付けするとともに、具体的な方策を資料を提示しながら、根拠を基に表現している。 (思考・判断・表現)	・他の生徒と情報交換・情報共有し、多面的・多角的に考察することができる。
第4時	・資料を読み取り、市長答弁を作成する。	・少子化・高齢化・過疎化に対して、それぞれの問題に対する優先度と課題を解決するための具体的な政策が根拠を基に示されている。 ----- ・評価Cは、三つの問題に対しての具体的な方策が二つ以下しか挙げられていない場合や、優先度の根拠があいまいで明示されていない場合である。評価をBとするために、会派による市長答弁作成や模擬議会において資料や友人の発表から根拠が明確になるようにする。	・蓄積した知識を用いて、問題の原因や市長としての政策の優先度と具体的な政策を根拠を基に表現することができる。 (評価1)
第5時	・少子化・高齢化・過疎化のうち、どの問題に重点を置くか、会派ごとに市長答弁をまとめる。	・模擬議会を通して、現代社会の問題を多面的・多角的に考察し、これから自分たちの世代が社会の中でどのような役割を果たしていくべきかを適切に表現している。 (思考・判断・表現)	・他者の考えを聞き自分の考えと比較することで多面的・多角的に考察し、自らの考えの変容を適切に表現することができる。 (評価2)
第6時 本時	・模擬議会を行い、地方自治における自分の果たすべき役割について考える。 ◎住みよい町づくりのために自分たちは何をすべきだろう。	・少子化・高齢化・過疎化に対して、評価1の際にはなかった新たな視点を指摘し、自分が社会の中で果たすべき役割について適切に表現している。 ----- ・新たな視点をもてない生徒に対しては、人口ピラミッドや人口推移のグラフから2050年の自分たちの役割について考察させることで、新たな視点に気付かせるようにする。	

※太線囲みの時間は本研究に関する授業である。

4 本時の指導

(1) 目標

模擬議会を通して、多面的・多角的に考察し、これから自分たちの世代が社会の中でどのような役割を果たしていくべきかを適切に表現することができる。

(2) 準備・資料

市長答弁原稿，補助資料，ワークシート，パソコン，プロジェクター

(3) 展開

学習活動・内容	教師の支援・手立て及び評価 ◇評価
1 学習課題を知る。 住みよい町づくりのために自分たちは何をすべきだろう。	・単元を貫く学習課題を振り返り、本時の活動について確認する。

2 模擬議会を開き、一般質問を行う。	
(1) 桜ノ牧市の基本情報を確認する。 桜ノ牧市基本情報	
人口	53,113人（前月比－50人）
世帯数	19,860世帯（前月比＋12世帯）
人口割合	幼年人口（0～14歳） 11.2% 全国平均：13.0% 生産年齢人口（15～64歳） 59.1% 62.9% 老年人口（65歳～） 29.7% 24.1%
主な産業	農業、林業、観光業（桜並木が有名）
東京からの距離・移動手段	・東京からは直線距離で約150km。 ・東京から最寄りのインターチェンジまで高速道路で約1時間、その後一般道を約1時間である。 ・公共交通機関を利用すると特急を利用しJR線を乗り継いで約2時間である。
中心市からの距離	・近隣の中心市までは直線距離で約20kmである。 ・JR線で約30分である。
市の概況	市中心部は駅を中心に古くからの商店街がある。しかし、最近は国道のバイパス沿いの開発が進み閉店した商店も多い。市の多くは山林であり、交通の不便な地域も多い。観光業が大きな柱であるが、温泉施設など既存の施設は他の自治体との違いを打ち出すことができていない。震災の影響もあり、観光客数は伸び悩んでいる。
(2) 市長は「住みよい街づくり」について3分を目安に答弁を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策・高齢化対策・過疎化対策の優先順位ごとに六つの会派に編成する。 ・市長及び質疑する議員は政策の優先順位を判断した根拠を明確に示しながら、主張や反論を行うように伝える。 ・模擬議会終了後に、桜ノ牧市の基本情報が常陸太田市のデータを基に構成していることを伝える。
(3) 他会派の議員は市長に対して質疑を行う。（1回3分程度）	
<ul style="list-style-type: none"> ・市長1名（発表者） ・議長1名（授業者） ・議員（その他の生徒） 	
3 常陸太田市の取組を紹介する。	◇少子化・高齢化・過疎化に対して、評価1の際にはなかった新たな視点を指摘し、自分が社会の中で果たすべき役割について適切に表現している。（思考・判断・表現）
(1) 近隣の自治体であり、少子高齢化に直面する常陸太田市が解決のために取り組んでいる様々な方策について知る。	
(2) 少子高齢化に関する諸課題について、これまでの活動を通して考察したことを踏まえ、自分が社会の一員としてどのような役割を果たすべきか考える。	
4 地方自治体の未来について、自分の考えをまとめる。	

5 授業の分析と考察

(1) 生徒が課題意識をもてる学習課題の工夫

本単元では青年としての生き方について考えさせるために「自分たちの地方自治の未来は？」という単元を貫く学習課題を設定し、模擬議会という場で自分の考えを発表する学習活動を行った。生徒は模擬議会に向けて、収集した新聞記事や資料などから少子化・高齢化・過疎化の現状や問題点を整理した。そして学

資料1 生徒の記述例

作業1：8点について重要と考え優先的に予算を配分する順に並べよう。			
1位	高齢者への対策	2位	過疎化対策
3位	少子化対策		
作業2：上記の順で、予算をそれぞれ何パーセント配分するか考え、棒グラフにまとめよう。			
	高齢者への対策45%	過疎化対策35%	少子化対策20%
作業3：なぜ上記のように考えたのか根拠を明確にしよう。			
桜ノ牧市は、全国平均の老年人口割合よりも上回っている。人口の3割を老年人口が占めているので、その人たちのことを支えなければならないと思ったから、高齢者への対策を優先させた。また、生産年齢人口は全国平均よりも下回り、観光客数も伸び悩んでいる。そして商店街も閉店している店が多く、活気がないので、過疎化対策を2位とした。			

習課題解決に向けて、資料を読み取り、他者と情報交換・共有し、課題についての考えや具体的な方策までを考察した。資料1(p.21)はその際に生徒が記述したワークシートの一部である。資料を読み取り考察した内容を基に政策の優先順位付けを行い、その根拠を明らかにして自分の考えを文章で記述している。

本時で実践した模擬議会では、各会派の市長に与えられた答弁時間、討論ともに3分と短いものであったが、自分とは違う優先順位や政策を聞くことで、収集した資料からでは分からなかった事実や考え方を理解し、少子化・高齢化・過疎化対策について再度考察することができた。資料2は、生徒が最優先課題とした根拠の例である。また、資料3は生徒が最優先課題解決のために提案した方策の例である。課題の軽重を付けた根拠、自分で考えた方策の有効性等について自信をもって主張することができた。これらのことから、現実的課題を学習課題として設定し、単元を通して課題解決のために取り組む一連の学習活動は、社会的な思考力・判断力・表現力を育むことに有効であったと考える。

(2) 評価を意識した単元計画の作成

単元全体で思考・判断・表現の評価を2回実施した。表2に示したとおり、28人の生徒は、少子化・高齢化・過疎化問題に対して根拠を明確に示しながら優先順位を付け、解決に向けた具体的方策を挙げていた。しかし、12人の生徒は、課題に対しての記述が抜けていたり、具体的な方策が考えられなかったため、C評価とした。そこで、提出した市長答弁書下書きにC評価とした理由を書き添え、再考を促した。資料4は、再考後に提出された市長答弁書の一部抜粋である。不足していた高齢化という視点と具体的な方策について触れられており、評価をBに上げた。

また、2回目の評価では、模擬議会を通して、新たな視点を取り入れることと、自

資料2 生徒が最優先課題とした根拠の例

最優先課題	根拠
少子化	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の介護や年金などを負担することが困難になる ・将来を担う子供が増えることで地域社会が維持できる ・少子化によって過疎化や高齢化も引き起こされている
高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設の入所待機者が増えており、その解決が最優先である ・全国平均を上回る高齢化率なのだから、高齢者を支えるのが第一である。 ・高齢者の交通事故増加が社会問題だから
過疎化	<ul style="list-style-type: none"> ・若者を引き止める、引き寄せる魅力ある街づくりが最優先 ・対策により人口が増え、少子化・高齢化対策に結びつく ・少子化や高齢化対策は時間がかかる。過疎化対策は効果が早く表れる

資料3 生徒が最優先課題解決のために提案した方策の例

最優先課題	課題解決に向けた方策
少子化	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生までの学童保育延長、父親の育休取得義務化、補助金や給付金・温かい雰囲気の出産婦人科を建設、ファミリーカードの発行
高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・定年を68歳に引き上げ・外国人労働者を介護職に雇用・バリアフリー・介護職従事者の待遇改善・高齢者の動きをサポートするスーツの開発
過疎化	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路を伸ばし交通の便を向上・法人税を引き下げて企業を誘致 ・中心市街地の空き店舗や空き家をリフォームした高齢者施設設置

表2 評価1に関する評価の結果(生徒数40人)

A	少子化・高齢化・過疎化の3つを関連付けて考察できている。	6人
B	三つの課題それぞれ根拠を基に優先順位付けし、具体的方策を示している。	22人
C	三つの課題に対して具体的方策が2つ以下しか挙げられていない。あるいは根拠があいまいである。	12人

私は、高齢化対策に力を入れていきたいと思っています。全国平均を上回る、老年人口割合。そのため、もっともっと高齢者を支える地域にしなければなりません。
(中省略)
具体的な政策の一つ目は、老人ホームに入れない、介護の必要性が低い高齢者のために、商店街にマンションのような共同で住める住宅を建てることです。

分たちの世代が社会の中で果たすべき役割について具体的に表現することができているかということを見取った。表3で示したように、すべての生徒が社会との関わりについて自分の世代がどのような役割を果たすべきかを考察することができた。これは、生徒が1回目の評価で教師が何を求めているのか、また、どのように論述すればよいかを理解したことが大きいと考えられる。しかし、資料5のように自らの主体的な行動について具体的に示すことができた生徒は14人と半数に届かなかった。社会参画の在り方についての指導の手立てが不足していたことが原因と考える。

表3 評価2に関する評価の結果

A	新たな視点や変容を具体的に示し、主体的な社会参加の方策を示している。	14人
B	新たな視点や変容を具体的に示し、社会とのかかわりについて示している。	26人
C	新たな視点や変容について示されていない。あるいは社会との関わりについて示していない。	0人

資料5 生徒の記述例

最後に、日本の社会をよくするために、これから自分たちにできることは、お互いが助け合い生活していくことであると考えた。具体的には、近所の人との関係を深め、困った時にはお互いが助け合えるような環境をつくるべきであると考えた。

このように、判断の基準を明確にすることで、C評価の生徒に対して効果的に支援をすることができた。また、生徒に判断の基準を意識させることで、生徒に学習のねらいを理解させ、目指す生徒の姿に近づこうという意欲の向上にもつながったと考える。以上のことから、単元計画に判断の基準と、努力を要すると判断した生徒への手立てを明記して、指導に生かしていくことは、社会的な思考力・判断力・表現力を育むことに有効であったと考える。

6 授業研究の成果と課題

(1) 成果

- ・生徒が課題意識をもてる学習課題の工夫では、単元を貫く学習課題を設定し、答弁書の作成、模擬議会での答弁等の学習活動を通して、根拠を基に政策の優先順位を判断したり、論述したりすることは、判断力、表現力の育成につながったと考える。
- ・評価を意識した単元計画の作成では、判断できる基準を基に評価を行うことは、評価の明確化だけではなく、同時に指導の目的や方法も明確になったと考える。

(2) 課題

- ・生徒の主体的な学習を促す時間を確保し、各単元の中で、体験的な学習を取り入れ、思考力・判断力・表現力を高めていかなければならない。
- ・判断の基準を設定する際には、評価基準と判断の基準の整合性や、生徒の学習状況の見取り方について今後も研修しなければならない。

Ⅲ 研究のまとめ

社会・地理歴史・公民科では、研究主題「社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会・地理歴史・公民科学習指導と評価」に迫るために社会的事象について多面的に考察し、公正に判断したことを適切に表現する学習活動と適切な学習評価を中心として研究を進め、県内小学校1校、中学校1校、高等学校1校で授業研究に取り組んだ。以下、研究の取組から本研究実践について主な成果と課題を述べる。

1 成果

(1) 児童生徒が課題意識をもてる学習課題の工夫

- ・小学校における研究では、栄養教諭による食育の授業において、農作物に関する興味・関心を高めた上で、単元の学習課題設定を行い、課題追究型の学習を行うことにより、児童の学習意欲を高め、社会的な思考力・判断力・表現力を育むことができた。
- ・中学校における研究では、資料から設定した学習課題の解決に向けて、社会的事象を三つの考察の視点から関連付けて論述することにより、社会的な思考力・判断力・表現力を育むことができた。
- ・高等学校における研究では、生徒自らが収集した資料から少子化・高齢化・過疎化の問題点について整理し、他者と情報を交換・共有したり、模擬議会で自分の考えを主張する学習を行うことにより、社会的な思考力・判断力・表現力を育むことができた。

(2) 評価を意識した単元計画の作成

- ・小学校における研究では、力の付いた児童を具体の姿で表した単元計画を作成し、付けたい力を示した単元学習計画表の提示したことによって、評価の妥当性が高まり、児童の概念的な知識を導き出そうとする態度の向上が見られ、思考力・判断力・表現力を育むことに有効であったと考える。
- ・中学校における研究では、単元計画で設定した判断の基準と生徒一人一人のワークシートの記述を照らし合わせて分析・評価し、生徒の実態を次時の授業構成に生かすことができ、思考力・判断力・表現力を育むことに有効であったと考える。
- ・高等学校における研究では、各時間で目指す生徒の姿を明確にして指導に当たり、生徒一人一人の学習状況を的確に判断し、有効な手立てを講じることができ、思考力・判断力・表現力を育むことに有効であったと考える。

2 課題

- ・「おおむね満足」できる状況の生徒を「十分満足」できる状況まで高めるための支援の在り方を追究する。
- ・社会的な思考力・判断力・表現力が児童生徒に育まれたかを客観的に判断するための指標、及び指標を生かした手立ての在り方を追究する。

<引用文献>

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」平成20年9月
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」平成20年9月
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」平成22年6月
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説 公民編」平成22年6月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 社会】」平成23年11月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 社会】」平成23年11月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 地理歴史】」平成24年7月
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 公民】」平成24年7月

関係者一覧

1 研究協力員

下妻市立下妻小学校	教諭	稲葉 正勝
水戸市立千波中学校	教諭	元濱 昭二
県立水戸桜ノ牧高等学校	教諭	小林 尚史

2 茨城県教育研修センター

所長	武井 一郎
教科教育課 課長	金子 敏久
同 指導主事	落合 剛